



# IRB1 IR Remote Control

取扱説明書 ver 1.0

# IRB1の使い方



## 1. 接続する

IRB1をiPhoneなどのDockコネクタに接続します。正しく接続すると緑色のLEDが点滅します。



## 2. アプリケーションのインストール

アプリケーションがiPhoneなどにインストールされていない場合、インストールをうながすアラートが出るので、「はい」をタップします。



## 3. アプリケーションのインストール

自動的にApp Storeの「i-Got-Control」ページに転送されるので、通常のアプリケーションと同様にインストールを行ってください。アプリケーションは無料です。

# アプリケーションについて



## ホーム画面

登録した機器はホーム画面から選択することができます。1つのページに9つまで登録でき、9つ以上は次のページに登録され、フリック操作でページを切り替え可能です。



## ① セットアップ

ボタンの操作音やバイブレーションの有無などの設定を行えます。設定を保存して終了するには、右の「Done」、保存せずに終了するには「Back」をタップしてください。



## ② System PWR

複数機器の電源を一斉操作する設定を行えます。設定を保存して終了するには、右の「Done」、保存せずに終了するには「Back」をタップしてください。



## ③ 機器の追加

操作機器の登録を行います。詳しくは、次のページを御覧ください。



## ④ 登録した機器の編集

登録した機器の削除や並び替えが可能です。削除するには✕をタップします。アイコンをタップしたまま長押しするとアイコンの並べ替えが可能になります。

# 各ボタンの詳細

## ① セットアップ



### セットアップ

- ① マスターボリュームの設定
- ② スワイプ操作でボリューム調整が行える機能の設定
- ③ 操作音の設定が行えます。
- ④ ヲァイブレーションの設定が行えます。

設定を保存するには「Done」をタップしてください。

## ② System PWR



### System PWR対象機器を選択

ワンボタンで複数の機器の電源操作が行えるSystem PWR操作を行う機器を選択します。保存して終了するには、右の「Done」、保存せずに終了するには「Back」をタップしてください。

## ③ 機器の追加



機器の名称を任意に設定可能

- A** 機器の種類
- B** 機器のメーカー
- C** 機器のIRコード

操作スライダー

### 機器の種類を設定

初めに、①で機器の種類を選択し、次に②で機器のメーカーを選択します。最後にIRコードを選択しますが、①のボタンをタップして正しいコードかどうかを確認しながら行います。正しいコードが選択されていれば、機器の電源がオンになります。

※ ①は電源操作のテスト信号を送るボタンです。

## ④ 登録した機器の編集



### 機器の種類を設定

登録した機器の削除や並び替えが可能です。削除するには⊗をタップ、並べ替えは、スクリーンをタップしたまま長押しするとアイコンの移動が可能になります。青いアイコンは「System PWR」が設定されている機器を示しています。

# マクロボタンにIR信号を学習させる

プリセットに登録されていない機器固有のボタンは、各機器のリモコンを使ってIRB1に学習させることができます。この機能を使えば、チューナーの切り替え操作を行ったり、「チューナーを切り替える」「チャンネルを変える」などの複数のボタン操作をひとつのボタンとして登録することができます。



## ステップ1

登録機器の3ページ目を表示させ、登録したいボタンをタップします。

## ステップ2

登録機器のリモコンを上図1のようにIRB1に向けてセットします。次に、「Learn」をタップして、登録したいリモコンのボタンを押してください。正しく登録が完了すると上図2の画面が現れますので、「Done」をタップして保存して終了します。

## 複数のボタン操作を登録する

続けてボタンを登録  
タイムラグを挿入



## Tips

この機能を使えば、例えばテレビの場合、「CS」の11チャンネルにワンタップで切り替えるボタンを作成することができます。

ボタンのテスト  
保存して終了

## ステップ2-1

複数のボタン操作を登録するには、続けて「Next Command」をタップすることで、複数のボタン操作を登録することができます。連続したボタン操作がうまく動作しない場合は、次のボタン操作を登録する前に「Add Delay」をタップします。これにより各ボタン操作の間にタイムラグを作り、操作機器が信号を受け取る合間を作ることができます。